



個人投資家向け説明会

株式会社FRONTEO 証券コード 2158

2026年5月

1. 推論(新しい発見)が出来る方程式駆動型AI「KIBIT」

2. 日本を再び創薬の地へ「AI創薬支援」

なぜ「KIBIT」が
科学における破壊的革新をもたらせるのか？

「トヨシバ推論方程式」

CONTENTS

01	会社概要	4
02	事業内容	20
03	2026年3月期通期 決算サマリー	38
04	今後の成長のイメージ	42

01 会社概要

会社名: 株式会社FRONTEO

上場証券取引所: 東京証券取引所グロース市場(証券コード:2158)

代表取締役社長: 守本 正宏

設立年月日: 2003年8月8日

資本金: 915,057千円(2026年3月31日時点)

従業員数(連結): 272人(2026年3月31日時点)

事業内容: 自社開発の方程式駆動型AI「KIBIT」の提供を通じた、社会課題と向き合う各分野の専門家の判断支援
(ライフサイエンスAI事業 / リスクマネジメント事業<ビジネスインテリジェンス・コンプライアンス支援分野/ビジネスインテリジェンス・プロフェッショナル支援分野/
リーガルテックAI分野/経済安全保障分野>/DX事業<株式会社アルネット・DX内製化支援、システム開発分野>)

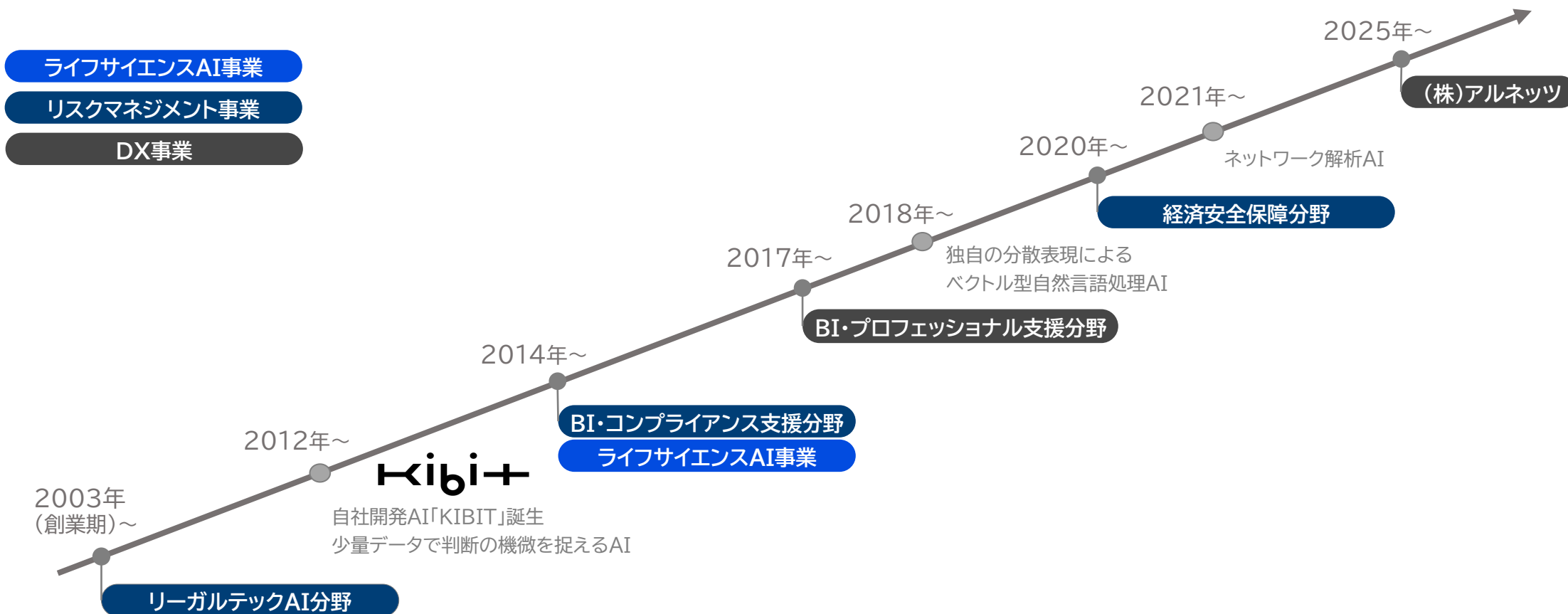
主要取引先: 民間企業(化学・機械・教育・金融・建設・小売・自動車・商社・情報通信・食品・製薬・電子部品・電力・保険など)
官公庁(法執行機関・各種監視委員会)、国内外法律事務所、医療機関

Global Offices



方程式駆動型AI「KIBIT」を基軸とした当社事業の変遷と実績

2012年の「KIBIT」誕生以降、事業領域の拡大および課題の多様化に合わせた技術進化を継続



大手企業を中心に導入

金融機関



製造業



製薬企業



サービス業



大学・研究機関



※ 2026年4月30日時点 一部掲載、順不同

方程式駆動型AI「KIBIT」の提供を通じて、日夜社会課題と向き合う各分野の専門家を科学的に支援

社会課題

病気 訴訟 不正 コンプライアンス 経済安全保障 技能伝承 DX

解決の努力

専門家

創薬研究者



医師



弁護士



犯罪捜査官



企業法務・
コンプライアンス



経済安全保障
分析官



熟練技能士



非連続的発見
(会話、文書、論文)

専門家自らが
理解する仮説生成

判断支援

NLP AI(特許取得済み)



KIBIT



FRONTEO

豊富な社会実装経験

マップ化する技術(特許取得済み)



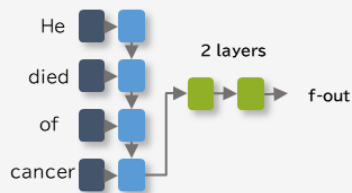
純国産AI「KIBIT」

数学的アプローチで開発された方程式で駆動する、軽くて高性能なAI

Kibi+

方程式で駆動

$$L = a\{F(\theta_2) - F(\theta_1)\}$$

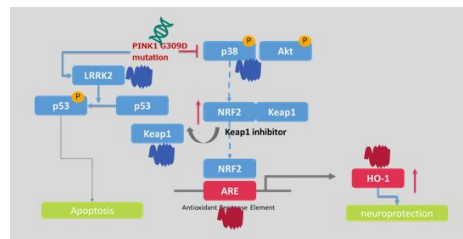


* 方程式はイメージです

非連続的発見



因果関係分析



CO2排出量極小

CO₂排出量の比較(単位: lbs)



CPU1台



※1 Energy and Policy Considerations for Deep Learning in NLP, College of Information and Computer Sciences University of Massachusetts Amherst (Jun 2019) から抜粋

※2 日本のCO2排出量および日本の人口からFRONTEO作成 ※3 ※1の論文と同様の計算方法により、FRONTEO作成

KiBiTは

なぜ新しい発見ができ、

因果関係がわかり

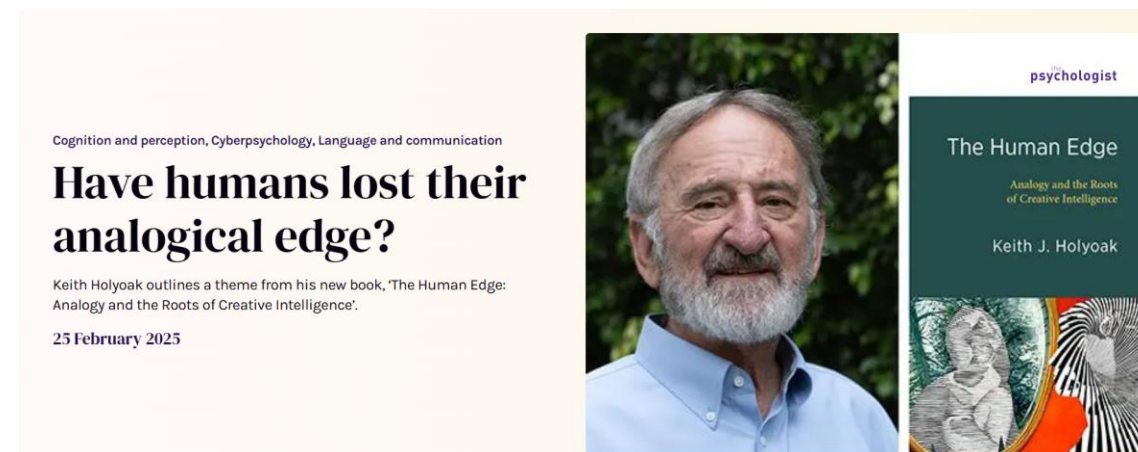
極省電力(CPU1台)で計算可能なのか？

“仮説的推論”こそが
新しいアイデアを誘発する
唯一の論理的活動

“推論”は創造のために必要な
人類特有の能力



Charles Sanders Peirce (1837-1914)



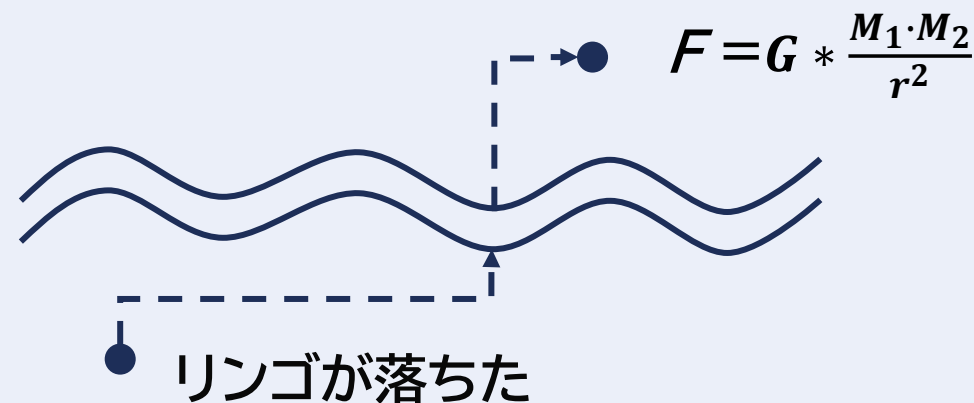
Keith James Holyoak (1950-)

連続的な発見の限界: 99%の努力の限界

「KIBIT」: 非連続的发现



1からnはそもそも連続的なつながりでは
想起できない

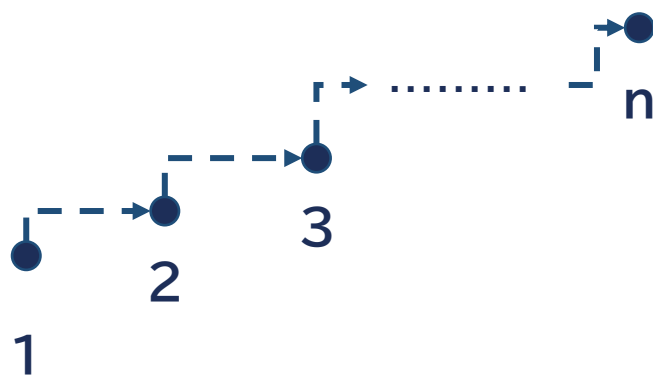


万有引力の概念がない時代に、
万有引力の情報はみつけれない

連続的な発見の限界: 99%の努力の限界

連続的なつながりであるが、
nが非常に大きいと、

1からnの想起は難しい

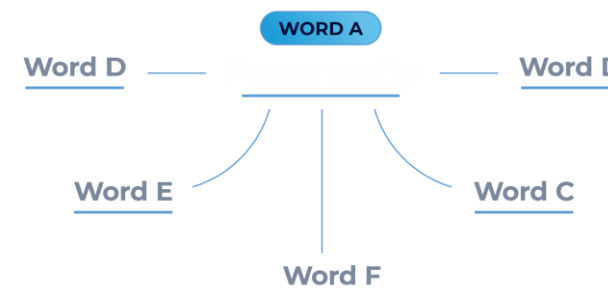
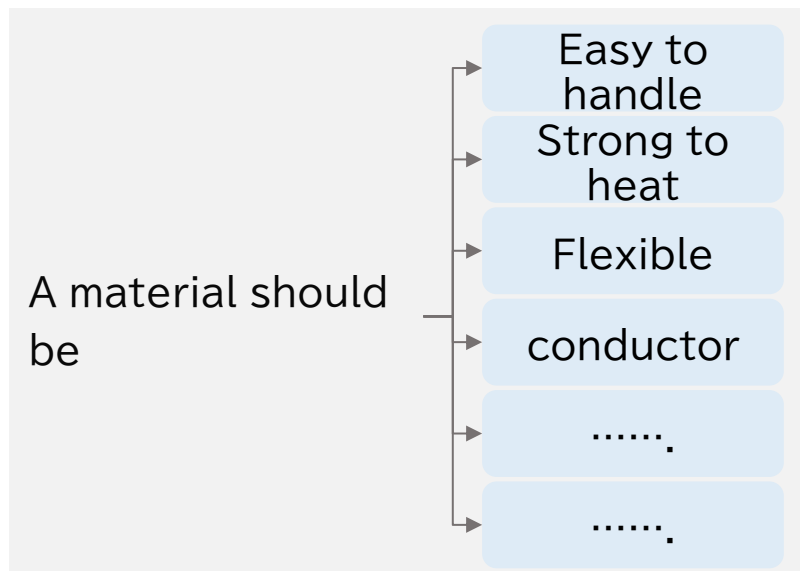
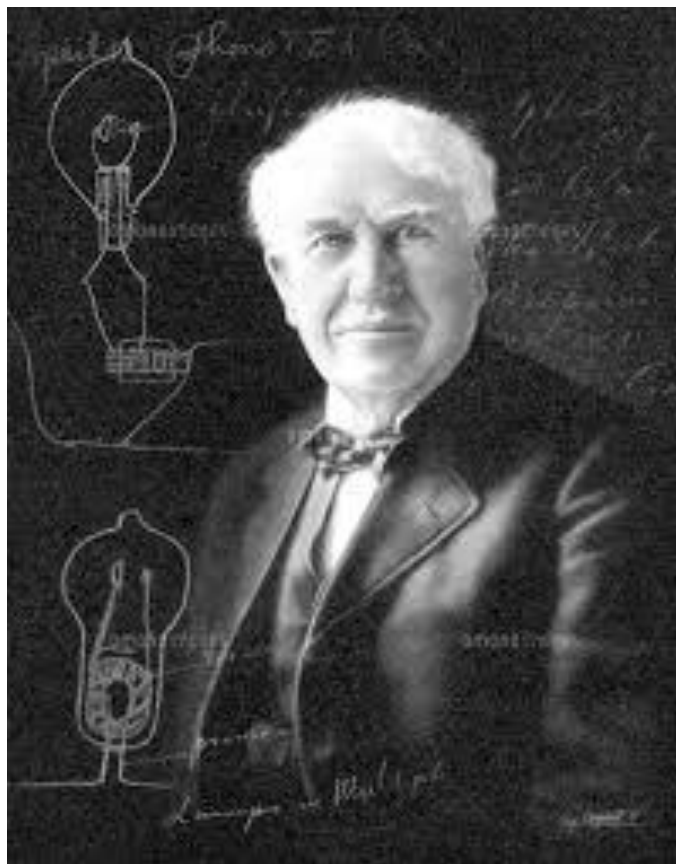


nの想起は難しいが、、、
存在はしているので必ず見つかる

世界のNLP: 連続的な発見



エジソンはフィラメントに合う材料を探していた
つまり、彼はフィラメントの条件を満たす材料を探している



フィラメントに適した可能性のある材料は
フィラメントに必要な要件で特徴づけられている

言語をベクトル化する技術

- | ベクトル化は自然言語処理の土台となる技術
- | 有力なIT企業や研究機関は、各社独自のベクトル化技術を保有
- | FRONTEOのみが方程式で解析的に最適解を取得し、他社は最適化による解の探索が必要。コンピューターの計算コストが増大



	FRONTEO	Google	Stanford	Meta
特徴	<ul style="list-style-type: none"> • 日米欧で特許(2018~) • 意味を保持したまま文書 & 単語を同時にベクトル化 • 方程式駆動型 (no optimization) 	<ul style="list-style-type: none"> • Word2Vec (2013) • 単語のみ (Sub word) • 最適化 	<ul style="list-style-type: none"> • GloVe (2014) • 単語のみ (Sub word) • 最適化 	<ul style="list-style-type: none"> • FastText (2016) • 未知の単語への対応 • 単語のみ (Sub word) • 最適化
正確性	◎	○	○	○
計算コスト	◎	▲	▲	▲

純国産・方程式駆動型AI「KIBIT」

純国産・方程式駆動型AI「KIBIT」は数学者が発見した方程式(トヨシバ方程式)により駆動

純国産・方程式駆動型AI「KIBIT」

数学者が発見した方程式で駆動するAI

トヨシバ方程式 日米欧特許技術

$$L = a \{ F(\theta 2) - F(\theta 1) \}$$

$$F(x) =$$



*方程式はイメージです

推論を実現

- ✓ 因果関係を理解
- ✓ 全く新しい発見
- ✓ 極省電力(CPU1個)

方程式駆動型AI
(KIBIT)

方程式

$$x = \frac{-b \pm \sqrt{b^2 - 4ac}}{2a}$$

$$\begin{aligned} ax^2 + bx + c &= 0 \\ a \left\{ x^2 + \frac{b}{a}x + \left(\frac{b}{2a}\right)^2 - a\left(\frac{b}{2a}\right)^2 + c \right\} &= 0 \\ a \left\{ x^2 + \frac{b}{a}x + \left(\frac{b}{2a}\right)^2 - a\left(\frac{b}{2a}\right)^2 - c \right\} &= 0 \\ \left\{ x^2 + \frac{b}{a}x + \left(\frac{b}{2a}\right)^2 - \left(\frac{b}{2a}\right)^2 - \frac{c}{a} \right\} &= 0 \\ \left(x + \frac{b}{2a}\right)^2 - \frac{b^2 - 4ac}{4a^2} &= 0 \\ x + \frac{b}{2a} &= \pm \sqrt{\frac{b^2 - 4ac}{4a^2}} \\ x &= -\frac{b}{2a} \pm \frac{\sqrt{b^2 - 4ac}}{2a} \\ x &= \frac{-b \pm \sqrt{b^2 - 4ac}}{2a} \end{aligned}$$

文書や単語を意味をもったまま解析することが可能

「KIBIT」の特徴 ※特許取得済み

■ 論文解析に対する疑問

- ✓ 品質の低い論文の影響を受けないの？
- ✓ 論文は公表情報なので新しい発見はできないのでは？

トヨシバ方程式がもたらす効果(既知から未知の発見)

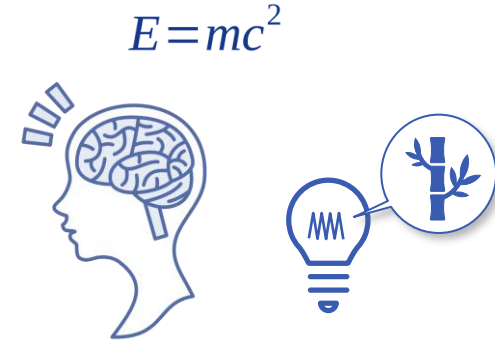
「KIBIT」の特徴 ※特許取得済み

■ 論文解析

- ✓ 品質の低い論文の影響を全く受けない
- ✓ 既知の情報から未知の発見

$$\frac{d^2 x^\lambda}{dr^2} + \Gamma^\lambda_{\mu\nu} \frac{dx^\mu}{dr} \frac{dx^\nu}{dr} = 0$$

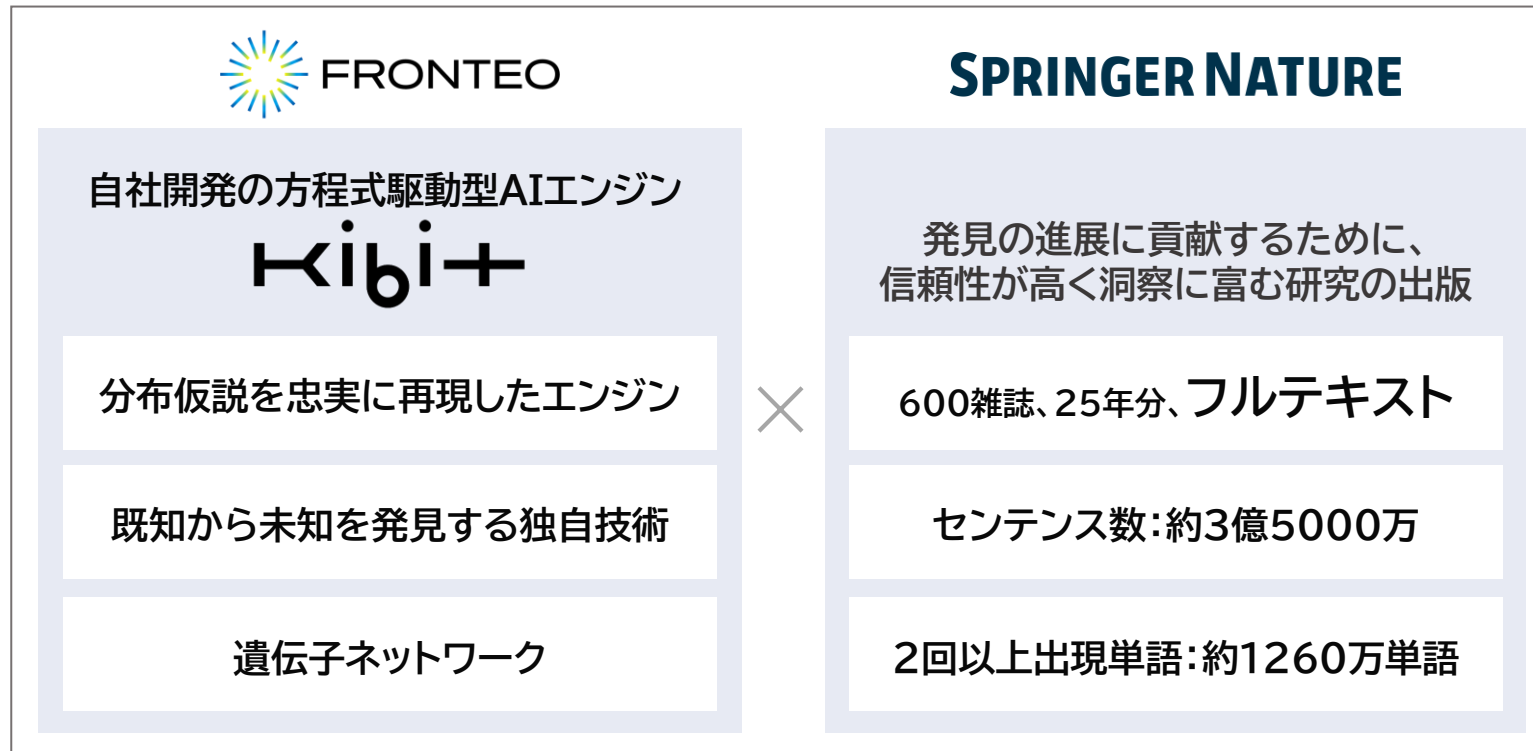
$$G^{\mu\nu} = \frac{8\pi G}{c^4} T^{\mu\nu}$$



SPRINGER NATURE × **KiBi+**

現時点では、「KIBIT」が世界で唯一、Natureの論文にアクセス・分析を許されているAI

- | 既知の文献情報から未知の関連性を発見する独自技術を活用した標的探索やドラッグリポジショニング等を支援するAI創薬支援サービス「Drug Discovery AI Factory (DDAIF)」を推進
- | 「KIBIT」が2022年までのシュプリンガーネイチャー掲載文献から予測した未知の創薬標的について、2024年の新しい文献で疾患と遺伝子の関連性が明らかになる



ホワイトペーパー

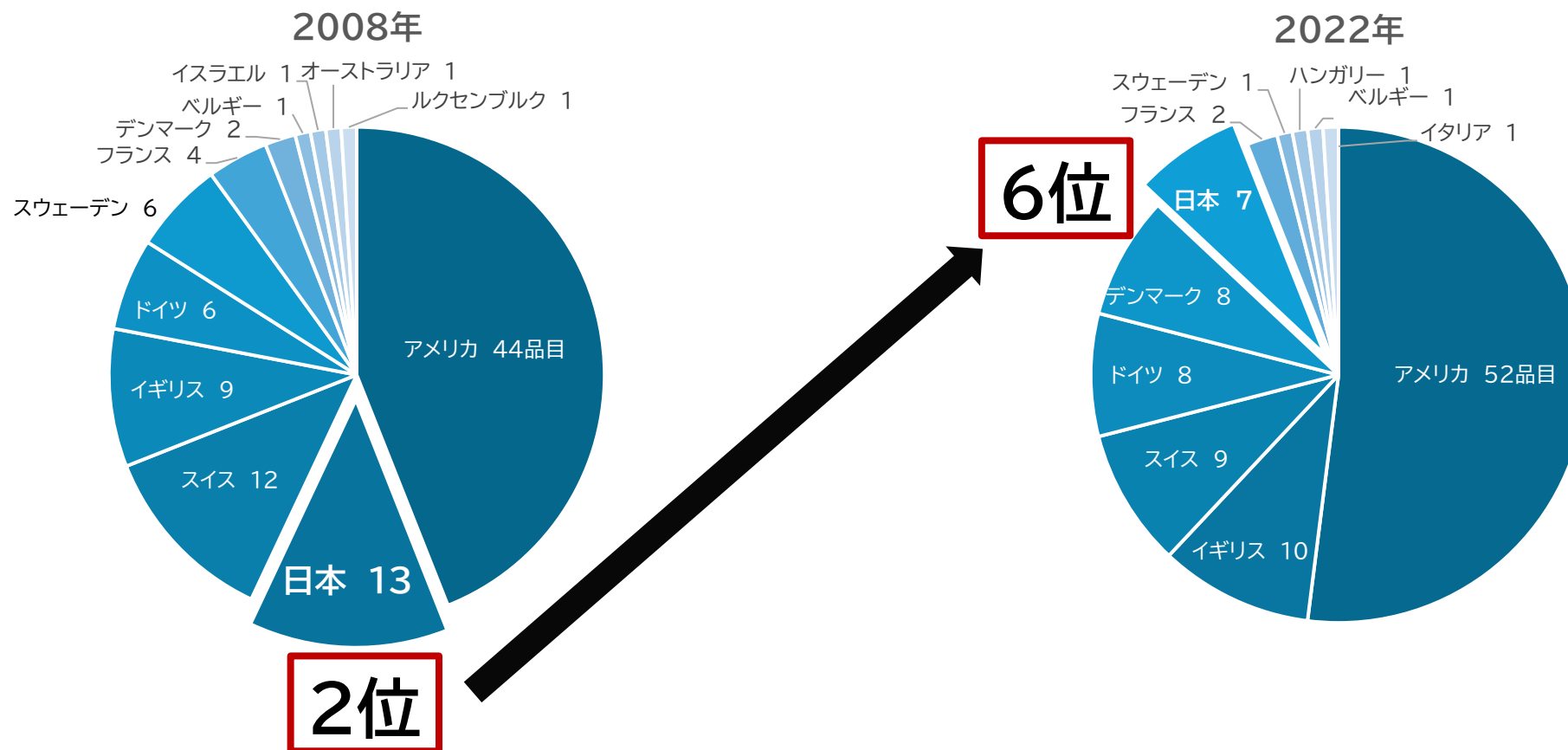


URL: https://lifescience.fronteo.com/documents-contact?doc=dLlsai_snwhitepaper

02 事業内容(ライフサイエンス AI創薬分野)

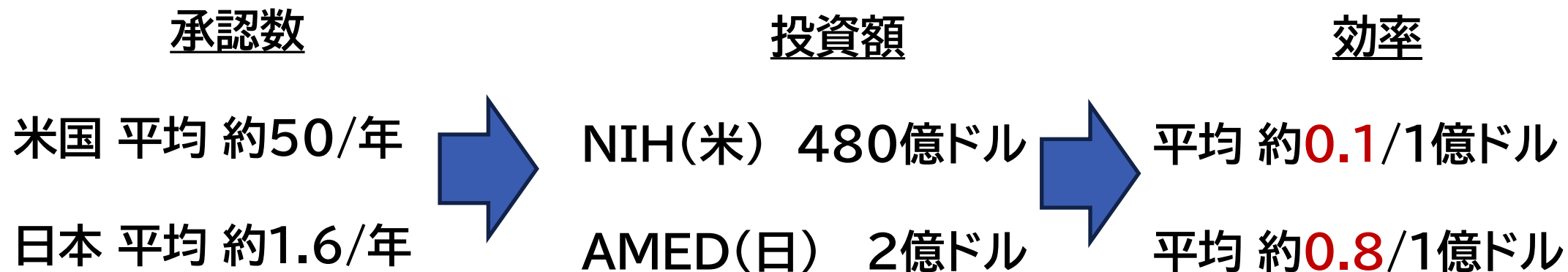
AI創薬分野 かつて日本は創薬の地だった

- | 1990年代には日本の製薬企業の売上シェアが約10%あったところ直近は6%台にまで低迷*
- | 世界中で販売されている医薬品売上高上位100品目を国別に比較すると日本の品目数は半減し順位を2位から6位へ転落



※世界の製薬会社売上高上位25社の決算情報をもとにFRONTEOにて作成
 出所: Copyright© 2024 IQVIA. IQVIA World Review Analyst, Data Period 2008-2022, IQVIA Pipeline & New Product Intelligence, Evaluate Pharma® (2023年11月時点), Clarivate Cortellis Competitive Intelligenceをもとに医薬産業政策研究所にて作成 (無断転載禁止)
 出典: 医薬産業政策研究所 政策研ニュースNo.71「世界売上高上位医薬品の創出企業の国籍-2022年の動向-」(2024年3月)をもとにFRONTEOにて作成

| 日本の技術力は米国よりも高い



影響度合い

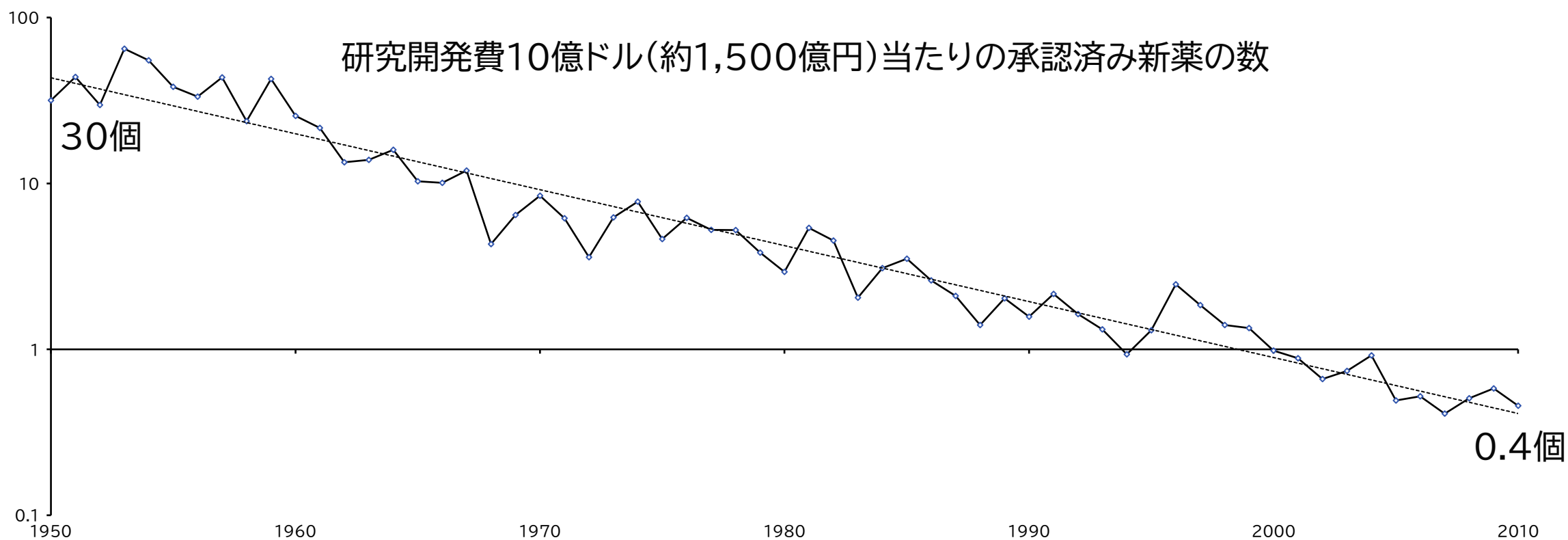
技術力 < 資金力

出典:厚生労働省 令和7年11月26日革新的医薬品・医療機器・再生医療等製品創出のための官民対話「AMED第3期における取組について」
FDA Novel Drug Approvals for 2024「CDER's Annual Novel Drug Approvals: 2015 - 2024」をもとにFRONTEOにて作成

AI創薬分野 イールームの法則

| 製薬企業の新薬開発コストが約9年ごとに倍増するというイールームの法則が起きている

ムーア Moore's Law → Eroom's Law イールーム

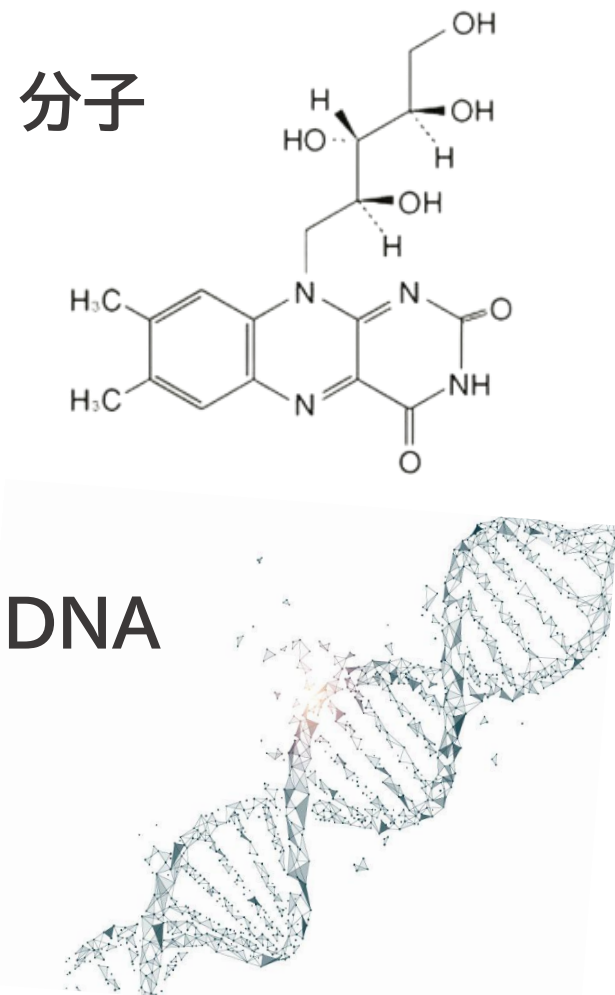


出所: Scannell JW, Blanckley A, Boldon H, Warrington B. Diagnosing the decline in pharmaceutical R&D efficiency. Nat Rev Drug Discov. 2012 Mar 1;11(3):191-200. doi: 10.1038/nrd3681. PMID: 22378269.

分子

Cc1cc(C)c2nc3c(nc(=O)[nH]3)CN(Cc4c(O)c(O)c(O)c4O)c2

DNA

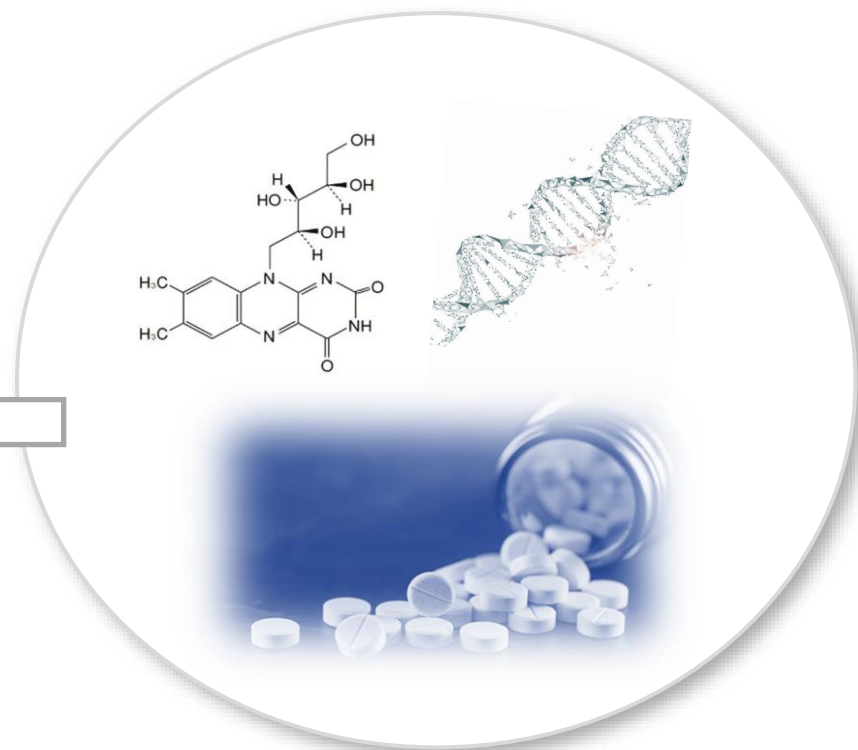
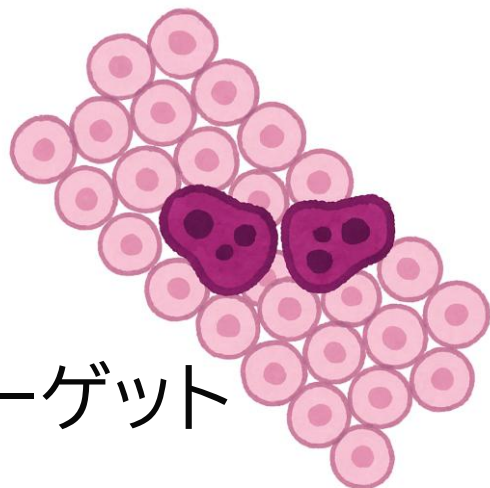


医薬品



創薬の始まりは標的分子の探索

標的分子/創薬ターゲット

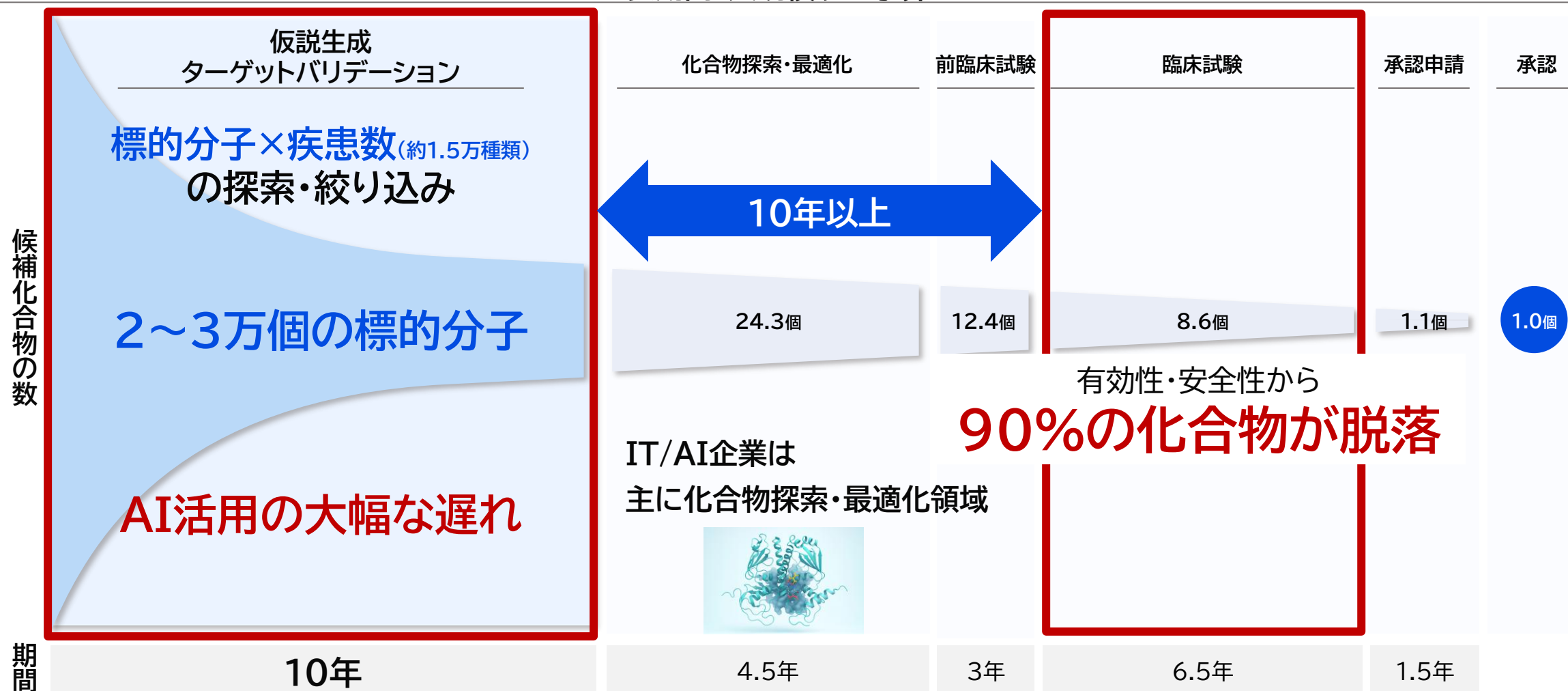


ただし、標的に作用したとしても、以下のリスクが存在

- × 生理的変化が見られない
- × 副作用・毒性などの悪影響を引き起こす可能性

検証が必須

長期間・大規模する予算



成功確率改善には **Biology(生物学的)解明**が必要

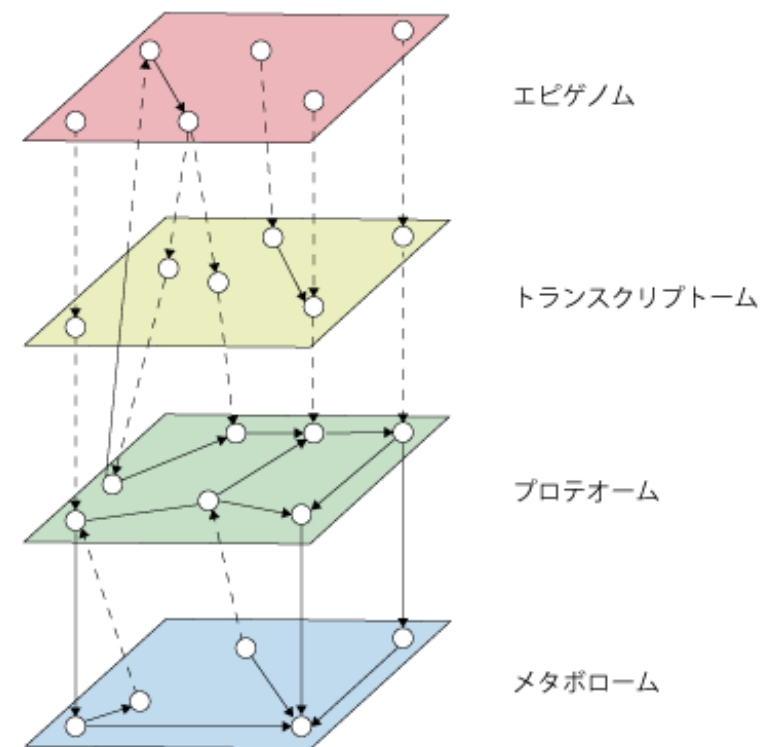
Real World Data(RWD)



スーパーコンピューター&AI



多層オミックス

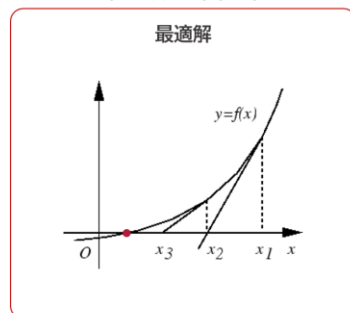


相関関係では因果関係を
正しく見つける事は不可能

スーパーコンピューター&AI



データ駆動型AI
(生成AI含む)

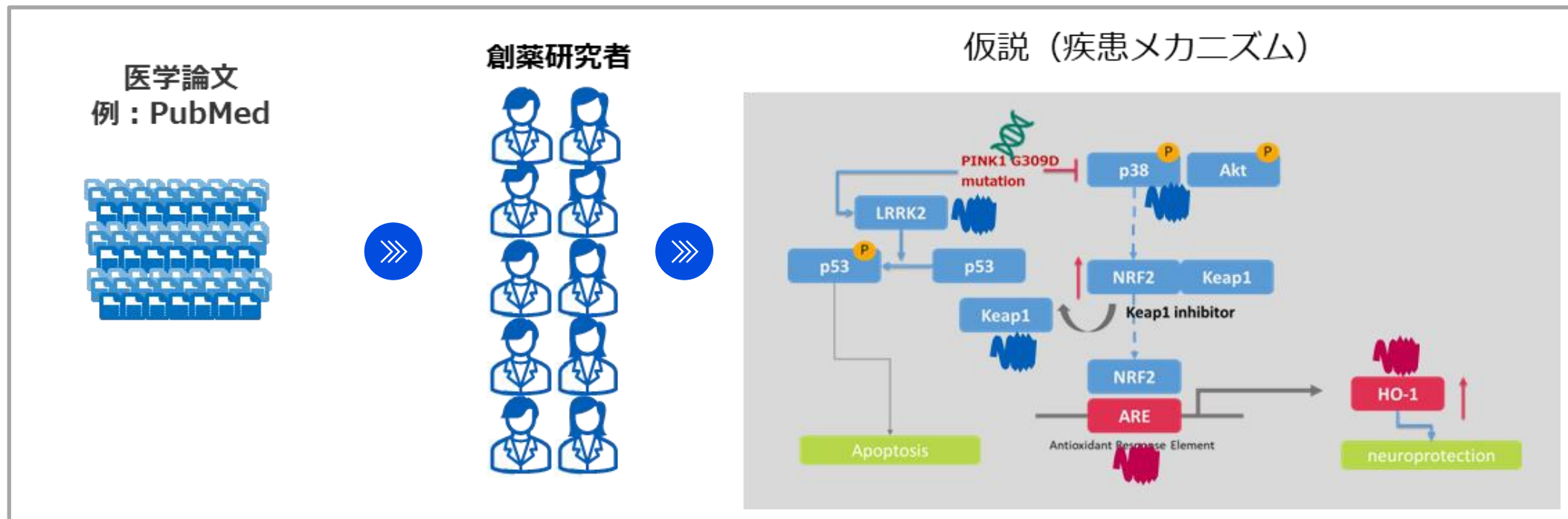


ウェットラボ&ロボティクス



因果関係が不明 = 生物学的理解ができない

論文が最も統合されているデータベース



優れた論文解析技術こそ最良の手段



FRONTEO AI KIBIT+

世界初・国産の仮説生成特化型・標的探索・適応症探索



- ✓ 因果関係を理解
- ✓ Novel Discovery
- ✓ 極省電力(CPU1台)

トヨシバ方程式

日米欧特許技術

$$L = a \{ F(\theta 2) - F(\theta 1) \}$$

$$F(x) =$$



*方程式はイメージです

AI創薬分野 方程式駆動型AI「KIBIT」による創薬支援

「KIBIT」は論文情報から
バイオロジーにのみ沿った関係の抽出

医学論文



数百次元の
コーパス



因果関係
マップ



特許技術により、因果関係を示し、かつ論文にも明記されていない関係も発見



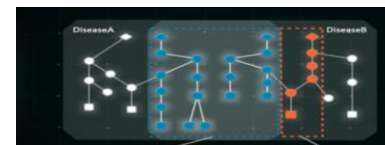
「KIBIT」による
シミュレーション機能を活用した検証手法

2次元マップ解析



コーパスを2次元マップに変換し、疾患と遺伝子の新たな関連性を探索

重複差分分析



複数の疾患の差異をベクトル的に分析し、疾患特有のパスウェイを調べ、要因を特定

仮想ノックアウト実験



注目した遺伝子に関して、仮想的にノックアウトし、パスウェイがどのように変化するかを分析し、効果を確認

方程式駆動型AI
(KIBIT)

方程式

$$x = \frac{-b \pm \sqrt{b^2 - 4ac}}{2a}$$

$$ax^2 + bx + c = 0$$

$$a \left\{ x^2 + \frac{b}{a}x + \left(\frac{b}{2a}\right)^2 \right\} - a \left(\frac{b}{2a}\right)^2 + c = 0$$

$$a \left\{ x^2 + \frac{b}{a}x + \left(\frac{b}{2a}\right)^2 \right\} = a \left(\frac{b}{2a}\right)^2 - c$$

$$\left\{ x^2 + \frac{b}{a}x + \left(\frac{b}{2a}\right)^2 \right\} = \left(\frac{b}{2a}\right)^2 - \frac{c}{a}$$

$$\left(x + \frac{b}{2a}\right)^2 = \frac{b^2 - 4ac}{4a^2}$$

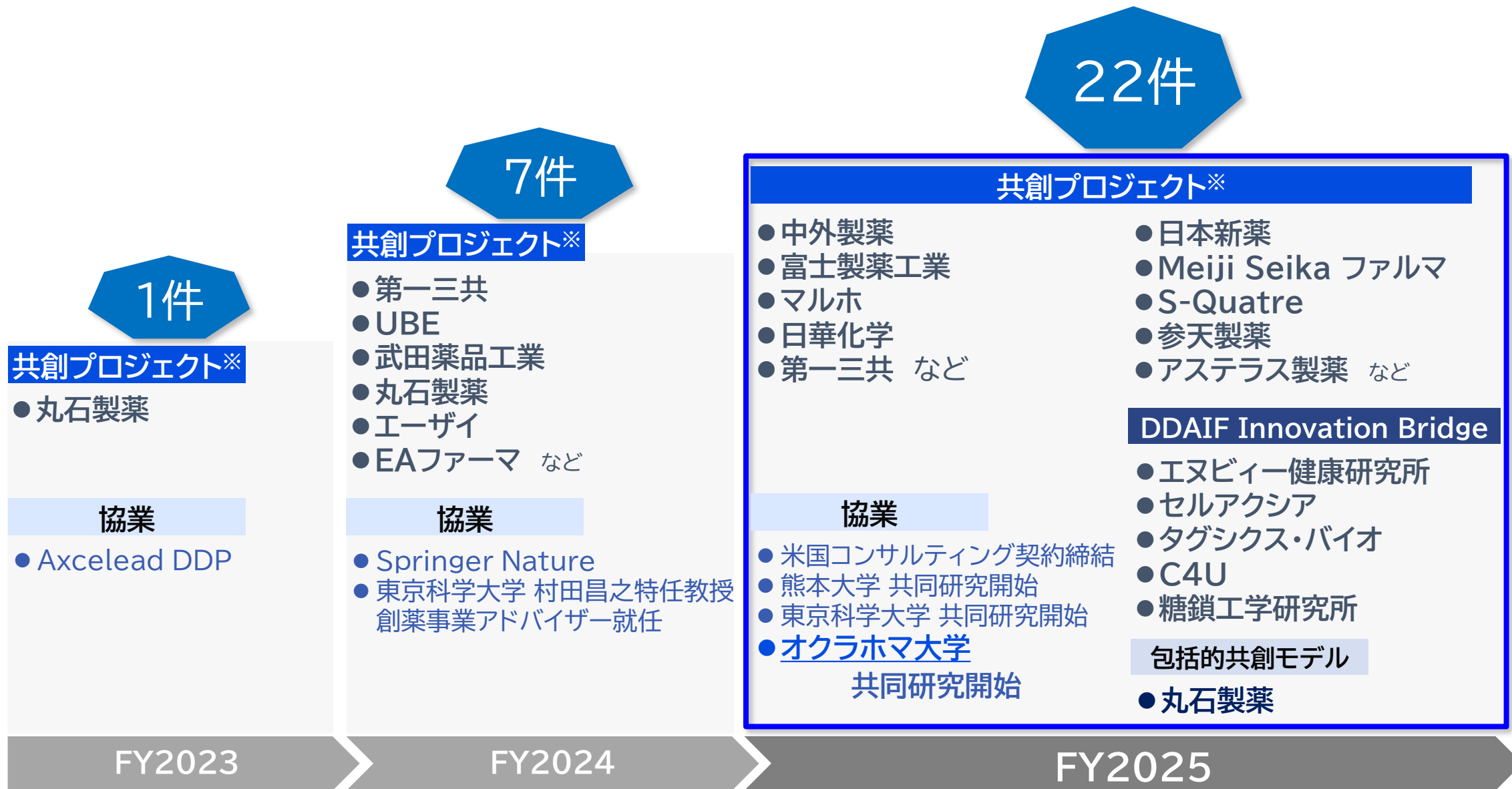
$$x + \frac{b}{2a} = \pm \sqrt{\frac{b^2 - 4ac}{4a^2}}$$

$$x = -\frac{b}{2a} \pm \frac{\sqrt{b^2 - 4ac}}{2a}$$

$$x = \frac{-b \pm \sqrt{b^2 - 4ac}}{2a}$$

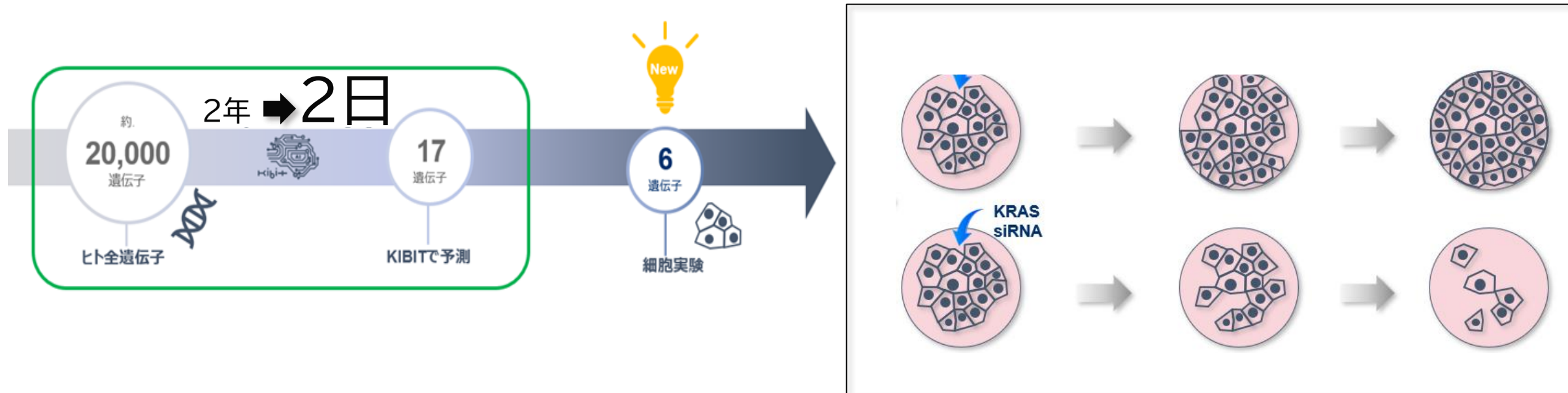
全て「KIBIT」で完結





※公開可能PJのみ記載

- ◆ 複数の新規標的分子を発見
- ◆ 細胞実験でがん細胞株の増殖抑制を確認



- すい臓がんの5年生存率は2%以下
- 非常に予後が悪く、有効な治療法もない
- 米国オクラホマ大学で追加試験を実施。今後動物実験実施へ

新モデル: 包括的共創モデル(全社横断・戦略伴走型)

包括的共創モデル

創薬戦略から導入判断、研究開発、育薬・LCMまでを横断的に支援するDDAIFの新たな業務提携モデル

包括的業務提携契約



伴走型パートナー

研究開発基幹機能としてDDAIFを組み込み、創薬戦略全般の意思決定を高度化

シーズ探索

導入判断

研究開発

LCM

包括的な業務提携契約をベースにした運用

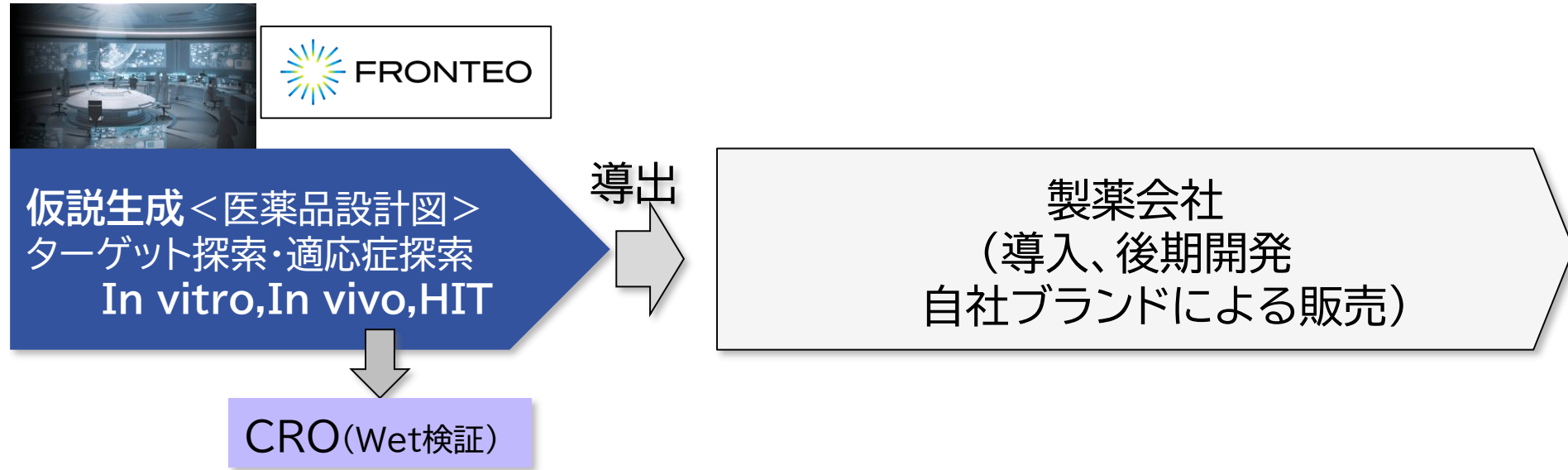
個別プロジェクト単位ではなく、業務提携のもとで創薬戦略支援を実施

全社横断的な活用

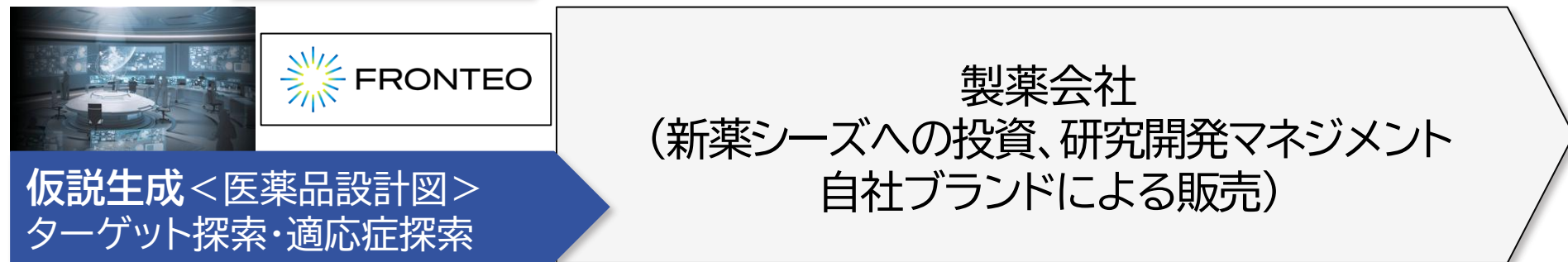
特定の研究テーマや疾患領域、研究部門に限定せず、全社的な創薬戦略および意思決定を支援



モデル②
自社研究・共同研究



モデル③
共創プロジェクト



サイエンス支援と資金で、導出に向けた“次の一手”につながる道筋をつくる

FRONTEO Drug Discovery AI Factory

DDAIF

- ・ マイルストーン
- ・ ロイヤリティ



1st フェーズ

評価・選定



サイエンス支援

資金援助・投資



2nd フェーズ

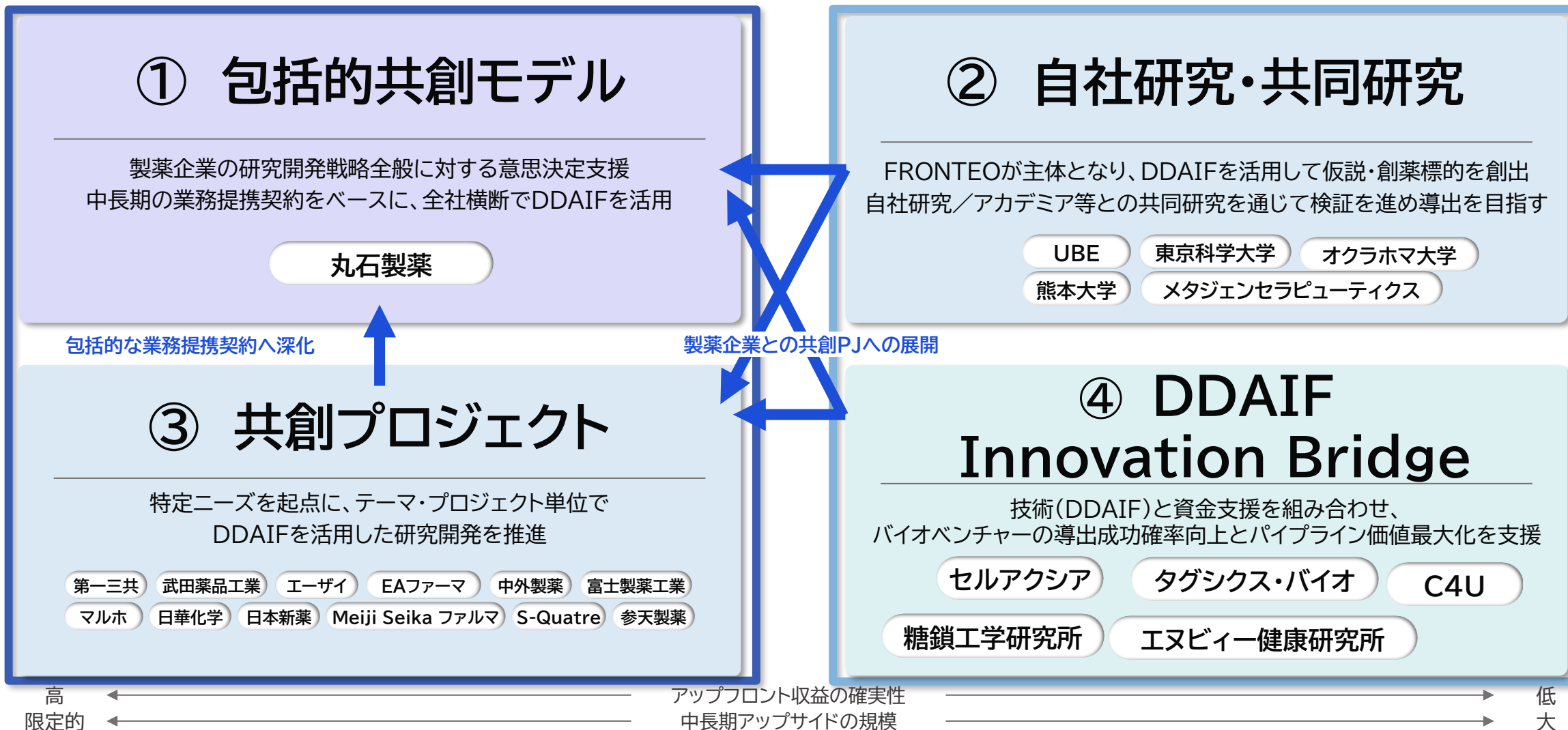
1stフェーズを通じ蓄積される知見を活かし新たな創薬アプローチの共創・共同導出へ



創薬スタートアップ群

AI創薬分野 4つのビジネスモデル

- 創薬プロセスの関与レベルや契約形態に応じて設計された4つのAI創薬ビジネスモデル
- 短期収益から中長期の導出・ロイヤルティまでを、複数のAI創薬ビジネスモデルで創出するポートフォリオを構築



03 2026年3月期通期 決算サマリー

2026年3月期 通期 経営指標

- | 連結売上高は、ライフサイエンスAI事業(AI創薬分野)の好調およびアルネッツ(DX事業)の買収効果が、リスクマネジメント事業(リーガルテックAI分野)の米国事業撤退による売上減少を上回り、前年同期比25.3%増で着地
- | 連結営業利益は、ライフサイエンスAI事業の収益改善およびアルネッツ(DX事業)の収益貢献により、前年同期比40.1%増で着地
- | 引き続き、ライフサイエンスAI事業を中核事業と位置づけ、経営資源を戦略的に選択・集中することで、事業拡大を加速

連結業績		ライフサイエンスAI事業	
売上高	7,643 百万円 前年同期比 +25.3%	売上高	1,033 百万円 前年同期比 +191.4%
営業利益	739 百万円 前年同期比 +40.1%	営業利益	▲16 百万円
EBITDA	1,182 百万円	リスクマネジメント事業	
		売上高	4,019 百万円 前年同期比 ▲25.2%
		営業利益	606 百万円 前年同期比 ▲8.1%
		DX事業	
		売上高	2,590 百万円 前年同期比 +598.9%
		営業利益	149 百万円 前年同期比 +49.6%

2026年3月期 通期 連結業績および進捗

- | 営業利益は、上方修正後の業績予想を上回り、105.6%の達成率で着地
- | ライフサイエンスAI事業：売上高は前年同期比約3倍に成長。下期において営業利益黒字化を達成し、通期黒字化へ目途
- | リスクマネジメント事業：リーガルテックAI分野の米国事業撤退により売上高・営業利益が減少した一方、経済安全保障分野の売上高は前年同期比28%成長
- | DX事業：アルネットの買収効果により大幅な増収増益

連結損益計算書

	(百万円)	FY24	FY25	前年同期比		FY25 修正予想	達成率
				増減	変化率		
売上高		6,099	7,643	+1,543	+25.3%	7,700	99.3%
(ライフサイエンスAI事業)		354	1,033	+678	+191.4%	1,000	103.3%
(リスクマネジメント事業)		5,374	4,019	▲ 1,354	▲25.2%	4,100	98.0%
(DX事業)		370	2,590	+2,219	+598.9%	2,600	99.6%
売上原価		2,646	3,737	+1,090	+41.2%	-	-
売上総利益		3,452	3,905	+453	+13.1%	-	-
販売費及び一般管理費		2,925	3,166	+241	+8.3%	-	-
営業利益		527	739	+211	+40.1%	700	105.6%
(ライフサイエンスAI事業)		▲ 231	▲ 16	+215	-	▲ 100	-
(リスクマネジメント事業)		659	606	▲ 53	▲8.1%	650	93.2%
(DX事業)		99	149	+49	+49.6%	150	99.7%
経常利益		543	675	+131	+24.1%	715	94.4%
当期純利益		555	544	▲ 10	▲2.0%	615	88.5%

* 2026年3月期よりセグメント変更しております。2025年3月期の売上高、営業利益などの項目は、変更後の区分方法により作成したものです。

2027年3月期 業績予想

- FY26は、ライフサイエンスAI事業(AI創薬分野)においてFY25からの成長をさらに加速させ、本格的な収益化フェーズへ移行するとともに、同事業を当社の中核事業として明確に位置づけ、中長期的な事業拡大を牽引する成長ドライバーとして確立を推進
- ライフサイエンスAI事業(AI創薬分野)は、単発の共創プロジェクトによるアップフロント型収益モデルから、パイプライン導出による一時金、マイルストーン、ロイヤルティ等を軸としたアップサイド型収益モデルへの転換を推進。FY26は、導出可能性の高いパイプラインを着実に積み上げることで、新たな収益モデルへの移行を進め、非連続性成長を実現する基盤を構築
- リスクマネジメント事業は、一部のリカーリング案件解約ならびに縮小の影響により減収減益を見込む。FY26は、プロダクトおよびサービスポートフォリオの戦略的な選択と集中を進めることで、中長期的な競争力強化を推進
- 全事業部の計画は下期偏重であり、FY26第1四半期においては一時的な営業損失を見込む。下期にかけて収益が拡大する見通しであり、通期では黒字を計画

(百万円)	FY25	FY26 業績予想	増減率			
ライフサイエンスAI事業						
売上高	7,643	7,600	▲0.6%	AI創薬分野	<ul style="list-style-type: none"> 共創プロジェクトの継続的な積み上げによるアップフロント型の安定収益に加え、将来的な創薬パイプライン導出によるアップサイド型の収入の獲得を見据えた「DDAIF Innovation Bridge」案件の拡充により収益を積み上げる計画 	非連続成長
(ライフサイエンスAI事業)	1,033	1,500	+45.2%			
(リスクマネジメント事業)	4,284	3,500	▲18.3%			
(DX事業)	2,325	2,600	+11.8%	AI医療機器分野	<ul style="list-style-type: none"> 「会話型 認知機能検査用AIプログラム医療機器(SDS-881)」の認証獲得、産業横断アライアンスによる非医療機器プログラムの販売拡大 	非連続成長
営業利益	739	300	▲59.4%	リスクマネジメント事業		
(ライフサイエンスAI事業)	▲16	100	-	ビジネスインテリジェンス・コンプライアンス支援分野 プロフェッショナル支援分野	<ul style="list-style-type: none"> 「KIBIT Eye」を基幹サービスと位置づけ、プロダクトの選択と集中「KIBIT」を軸に顧客の個別課題に対応した受託開発・SIを組み合わせたソリューション型サービスを推進 	リニア成長
(営業利益率)	-	6.7%		経済安全保障分野	<ul style="list-style-type: none"> 官公庁および民間企業への訴求を継続 コンサルティングサービスの拡充 	リニア成長
(リスクマネジメント事業)	643	95	▲85.2%	リーガルテックAI分野	<ul style="list-style-type: none"> 顧客基盤の構築・強化を継続(FLLP・ウェビナー・Risk Initiative Community) 	堅実な事業運営
(営業利益率)	15.0%	2.7%		DX事業		
(DX事業)	112	105	▲6.3%	株式会社アルネッツ・DX内製化支援、システム開発分野	<ul style="list-style-type: none"> BIプロフェッショナル支援分野とアルネッツの事業シナジーの創出により、安定的かつ着実な事業拡大を目指す 	リニア成長
(営業利益率)	4.8%	4.0%				
経常利益	675	250	▲63.0%			
当期純利益	544	150	▲72.4%			
EBITDA	1,182	890	▲24.7%			

* 2027年3月期よりセグメント変更しております。2026年3月期の売上高、営業利益などの項目は、変更後の区分方法により作成したものです。

04 今後の成長イメージ

| 初期選定5社を皮切りに多くのバイオベンチャーと提携

| バイオベンチャーに投資をしているVC等と連携

| 日本からの導出機会を創出し、経済効果として1兆円を目指す

FY25

初期フェーズ



5社

への協力

パートナー企業

エヌビー健康研究所

糖鎖工学研究所

C4U

タグシクス・バイオ

セルアクシア



FY26 - 30

拡大・展開フェーズ

総合経済効果
最大1兆円



導出金額

1件 20億円~100億円

成功モデル



研究テーマ総数

2~5件 / 社

豊富なシーズ



国内バイオベンチャー

50~100社

ターゲットプール

AI創薬分野 ライセンスアウトパイプライン

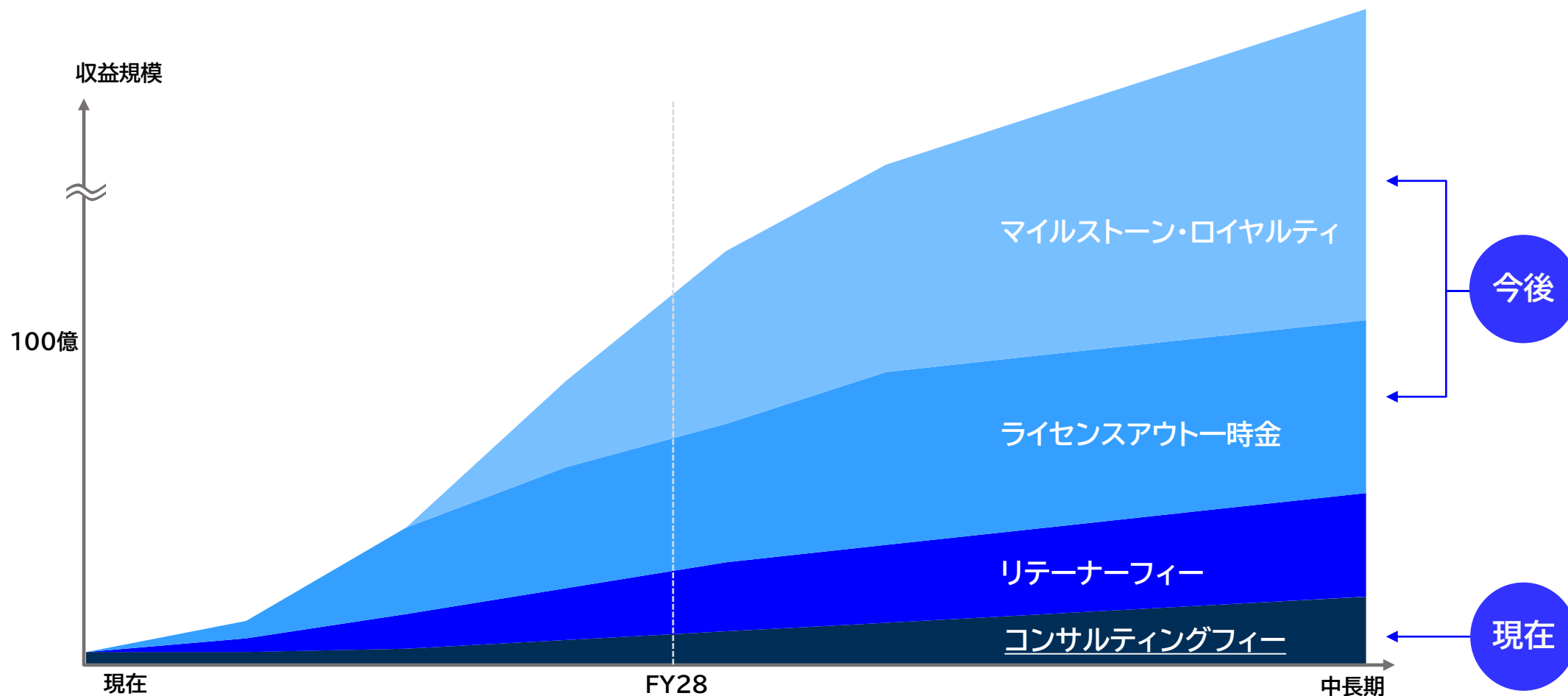
- | 製薬企業への導出(ライセンスアウト)を目指すパイプラインが複数進行中
- | すい臓がん案件は、米国におけるがん研究の中核機関の一つであるオクラホマ大学で研究を推進。今後は動物実験により、さらなるエビデンスを蓄積
- | エヌビー健康研究所との案件は、最短で2026年度中の製薬企業への導出(ライセンスアウト)を目指す

ライセンスアウトパイプライン

FRONTEO エコシステム				導出	
ターゲット選定	化合物探索・最適化	前臨床試験	臨床試験	承認	
領域	疾患	ライセンス保有者	モダリティ	開発ステージ	基本情報
オンコロジー	すい臓がん	自社		研究	自社研究。In vitroにてがん細胞の増殖抑制試験を行い、一定の効果を確認。米国オクラホマ大学で追加試験を実施。今後In vivoへ移行
代謝疾患	線維症	他社	抗体 (特許取得済)	初期前臨床段階	エヌビー健康研究所との「DDAIF Innovation Bridge」共同開発案件 GPCRを標的とした抗体医薬品
オンコロジー		共同	抗体	臨床	他社との共同プロジェクト
非公開		共同	低分子	前臨床	他社との共同プロジェクト 創薬シーズの創出および製薬企業への導出

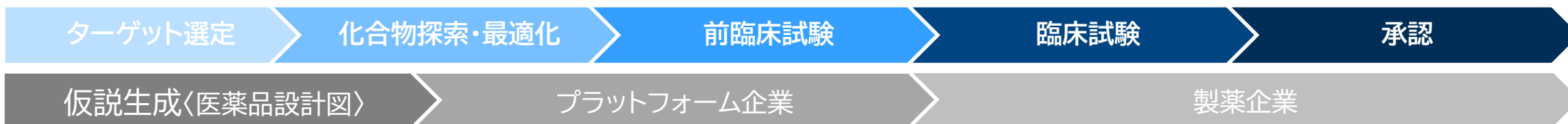
AI創薬分野 ビジネスモデル成長イメージ

- FRONTEOは医薬品開発の設計図ともいえる「仮説」を提供
- 共創プロジェクトをベースとした安定的な収益モデルを基盤とし、創薬開発の進捗に応じたマイルストーンや、パイプライン導出型のビジネスモデルによる、中長期的な非連続成長を目指す



AI創薬分野 基礎研究から臨床研究を効率化し導出力を強化

| DDAIFにより通常10年以上かかるターゲット選定から化合物探索・最適化、前臨床試験までのプロセスを極超効率化され、短期間での導出が可能に



KIBIT AI Biology Lab



東京科学大学



オクラホマ大学

バイオベンチャー群



➔ 製薬企業へ導出

半導体業界バリューチェーン





お問い合わせ先 株式会社FRONTEO
email: ir_info@fronteo.com

代表取締役社長
守本正宏Xアカウント



将来見通しに関する注意事項

本資料につきましては、投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を確認された上で、ご利用ください。業界等における記述につきましても、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させて頂くものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。